

## ◆ 推薦のことば ◆

---

このたび、私の尊敬する生物統計学者である、田中司朗先生、田中佐智子先生のご夫妻が臨床医向けに執筆した本著を推薦できることは、至上の喜びであります。田中先生ご夫妻は、東京大学の疫学・生物統計学教室（大橋靖雄名誉教授）のご出身で、その後、ご縁があつて、お二人とも私の主宰する京都大学の薬剤疫学の教室にて、教員として研究指導や教育にご尽力をいただいていた。私自身は、臨床医の経験ののち、基礎医学研究、米国での行政官を経て、現在は社会医学の領域で、医療データベース研究とその基盤整備を行っております。

昨今、診療報酬請求（レセプト）情報、病院のDPCデータ、電子カルテ由来の診療情報、疾患登録など、各種のデータベースが構築され、大規模医療データベースを用いた臨床疫学、薬剤疫学研究を実施することが世界的な潮流となっています。2014年にはレジデントノート誌にて、医療現場に立脚した臨床研究の実例についてのシリーズを監修させていただいたこともあり<sup>\*</sup>、このようなデータベース研究の分野は国内でも大きな注目を集めるようになっていきます。

私の教室には、全国から多くの若手医師が大学院に入学し、大規模データベースを用いた臨床研究の世界に足を踏み入れてこられています。大学での取り組みのみならず、田中先生ご夫妻のご助力をいただいて、これまでの数年間に、神戸では年に3回、さらには、札幌、東京、横浜、博多など各地で、若手医師や薬剤師向けに臨床研究の初学者のためのセミナーやワークショップを開かせていただきました。その際にも、医療統計学に関する質問や苦手意識の声はよく聞かれます。

田中司朗先生、田中佐智子先生は、上述のようなさまざまな教育コンテンツの開発や指導のご経験を踏まえて、この「短期集中！オオサンショウウオ先生の医療統計セミナー」では忙しい臨床医などにも無理なく読んで学習いただけるような工夫を取り入れられています。私も、もっと若いうちにこの本に出会っていれば…と、いまこの本を手にとっている読者を羨ましく思うところです。繰り返しになりますが、今後、各種の大規模医療データベースや疾患登録情報を用いた臨床疫学研究は、医学研究の中心となっていくと思います。そのなかで、医療統計の考え方、読み取り方を学んでいくことで、皆さんの臨床研究力と発想力が広がっていくことを祈念しています。

<sup>\*</sup>シリーズ「臨床の疑問を解決する手段 臨床研究をはじめよう！」全6回（レジデントノート2014年1月号～2014年11月号、隔月で掲載）

2016年9月

京都大学大学院医学研究科薬剤疫学 教授  
川上浩司